

FF-Data（訪日外国人流動データ） の概要と利用例

FF-Data(訪日外国人流動データ)の概要	P2
1. 流動量・入込客数に関する分析	P3
分析例① 都道府県間年間流動量ランキング	P4
分析例② 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例①)	P5
分析例③ 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例②)	P6
分析例④ 特定の県への近隣県からの流動分析(広島県の例①)	P7
分析例⑤ 特定の県への近隣県からの流動分析(広島県の例②)	P8
分析例⑥ 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング	P9
分析例⑦ 運輸局ブロック別 四半期別入込客数	P10
分析例⑧ 運輸局ブロック別 四半期別 国籍別入込客シェア	P11
2. 利用交通機関に関する分析	P12
分析例⑨ 運輸局ブロック別 交通機関分担率	P13
分析例⑩ 首都圏-中国(広島・岡山)間旅行者の経由地を含む流動分析	P14
3. 旅行者属性に関する分析	P15
分析例⑪ 都道府県別 旅行目的別シェア	P16
分析例⑫ 国籍別の旅行手配方法(団体/個人)に関する分析	P17
分析例⑬ 国籍別の来訪回数に関する分析	P18
4. 周遊に関する分析	P19
分析例⑭⑮ 入国空港からの訪問地に関する分析例	P20-21
5. 経年的な分析	P22
分析例⑯ 国籍別 都道府県年間入込客数の推移	P23
分析例⑰ 特定地域の入込客数と地域間流動量(九州の例)	P24
分析例⑱ 東京からの流動分析の推移(北陸の例)	P25

FF-Data(訪日外国人流動データ)の概要

● 当該データの作成方法

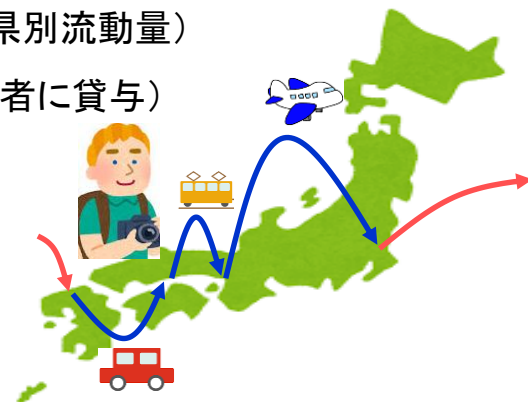
- 国内流動に関する、観光庁「訪日外国人消費動向調査」、航空局「国際航空旅客動態調査」、国籍別出国者数に関する、法務省「出入国管理統計月報」を組み合わせで作成した。

● 公表物

- 都道府県間流動表（国籍別・交通機関別）
- 公表用データベース（国籍・交通機関・目的・出国空港・発着都道府県別流動量）
- 貸出用データベース ※周遊ルート、宿泊数等が分析可能(利用希望者に貸与)

● 分析できる内容

- 都道府県間流動量、都道府県別入込客数
- 移動の際の利用交通機関
- 周遊ルート、泊数
- 訪日外国人属性(国籍、目的、来訪回数、旅行手配方法(団体/個人)、出国空港)



● 利用上の注意

- 訪日外国人消費動向調査、国際航空旅客動態調査はいずれも、国内訪問地の情報はアンケート回答者の主観に委ねられているため、特に都市内あるいは都道府県内等の短距離の流動が十分に把握できていない可能性がある点にご注意願います。
- また、例えば1回の旅行で、ある都道府県を2回訪問した場合は、都道府県間流動表ではその都道府県を2回訪問したこととして集計しています。そのため、都道府県別の入込客数を都道府県間流動表から集計する際には、同じ人を複数回カウントしている点にご注意願います。

1. 流動量・入込客数に関する分析

分析例① 都道府県間年間流動量ランキング

都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

※分析例作成の際に利用を推奨するデータをオレンジ色で示している

- 都道府県間の年間流動量を把握することが可能である。
- 都道府県間の年間流動量は、千葉県-東京都間、京都府-大阪府間等で多く、流動が首都圏・近畿圏に集中しているということ等がわかる。

表 都道府県間の年間流動量ランキング(2016年)

順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)
1	千葉県	東京都	1,032.7
2	京都府	大阪府	628.7
3	東京都	神奈川県	190.3
4	大阪府	兵庫県	152.0
5	大阪府	奈良県	134.2
6	東京都	京都府	129.0
7	東京都	大阪府	124.8
8	福岡県	大分県	116.8
9	東京都	静岡県	89.3
10	京都府	奈良県	88.2
11	千葉県	神奈川県	87.4
12	京都府	兵庫県	58.7
13	東京都	山梨県	58.6
14	東京都	愛知県	55.4
15	愛知県	大阪府	54.8
16	愛知県	京都府	46.5
17	岐阜県	愛知県	42.0
18	福岡県	長崎県	40.1
19	福岡県	熊本県	36.1
20	東京都	長野県	35.5

順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)
21	北海道	東京都	35.2
22	千葉県	静岡県	33.0
23	千葉県	大阪府	29.2
24	千葉県	京都府	29.0
25	神奈川県	京都府	27.1
26	京都府	広島県	26.1
27	千葉県	長野県	24.8
28	兵庫県	奈良県	24.3
29	千葉県	山梨県	24.0
30	埼玉県	東京都	23.7
31	大阪府	広島県	23.5
32	静岡県	愛知県	23.3
33	福岡県	佐賀県	23.1
34	栃木県	東京都	23.0
35	埼玉県	千葉県	22.6
36	大阪府	和歌山県	22.1
37	石川県	岐阜県	21.4
38	静岡県	京都府	21.0
39	山梨県	京都府	20.1
40	熊本県	大分県	20.0

順位	都道府県間		年間流動量 (万人/年)
41	山梨県	愛知県	18.0
42	茨城県	東京都	18.0
43	茨城県	千葉県	17.6
44	北海道	千葉県	17.5
45	栃木県	千葉県	17.5
46	山口県	福岡県	16.7
47	神奈川県	静岡県	15.9
48	東京都	広島県	15.6
49	神奈川県	大阪府	14.8
50	神奈川県	愛知県	14.0
51	静岡県	大阪府	13.7
52	北海道	大阪府	12.3
53	東京都	岐阜県	12.0
54	滋賀県	大阪府	11.8
55	東京都	石川県	11.2
56	愛知県	三重県	11.2
57	東京都	奈良県	11.1
58	富山県	愛知県	11.0
59	群馬県	東京都	11.0
60	富山県	石川県	10.8

(注1) 上位60位までを掲載。

(注2) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(注3) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)

(出典) FF-Data(2016年)より作成

首都圏	九州
近畿圏	北海道
中京圏	沖縄

分析例② 特定の県への近隣県からの流動分析(富山県の例①)

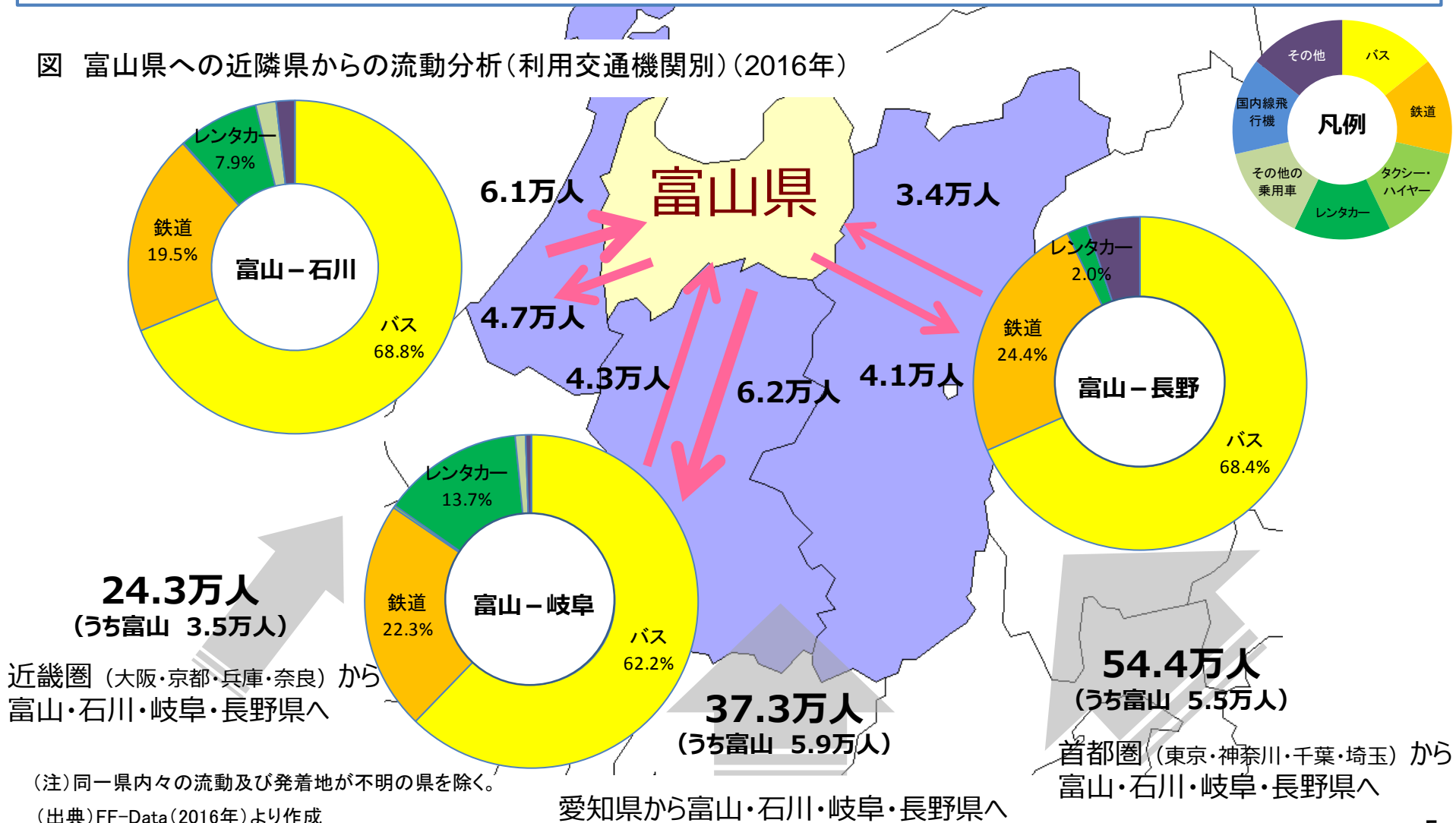
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 大都市圏からの直接の流入は愛知からが多いが、全体に占める割合は限定的である。
- 富山県と近隣県間の流動においては、バスによる移動が大半を占めている。(北陸新幹線開業後)

図 富山県への近隣県からの流動分析(利用交通機関別)(2016年)



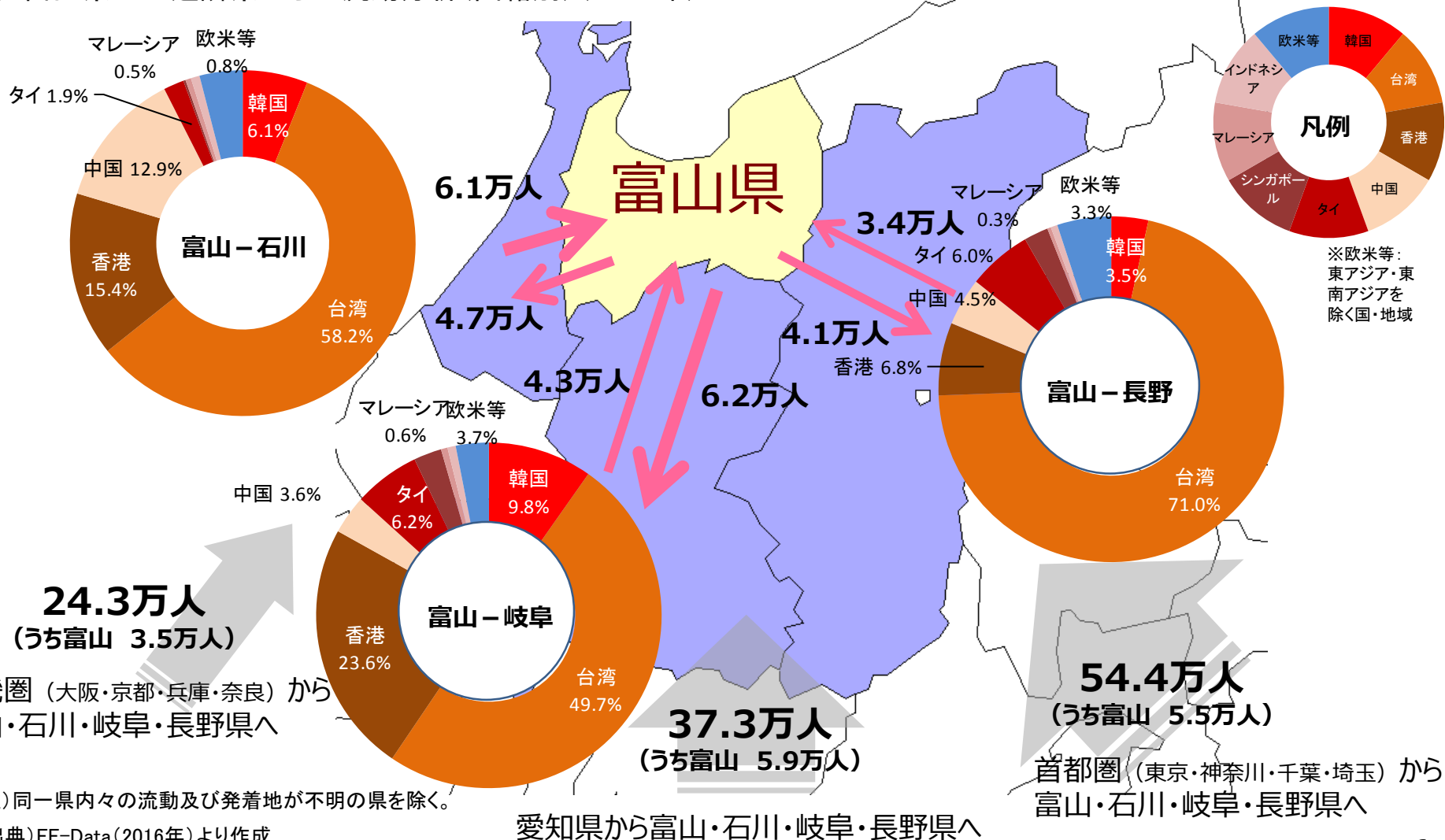
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 隣接県からの富山県訪問者は台湾国籍の旅行者が多い。

図 富山県への近隣県からの流動分析(国籍別)(2016年)



(注)同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典)FF-Data(2016年)より作成

分析例④ 特定の県への近隣県からの流動分析(広島県の例①)

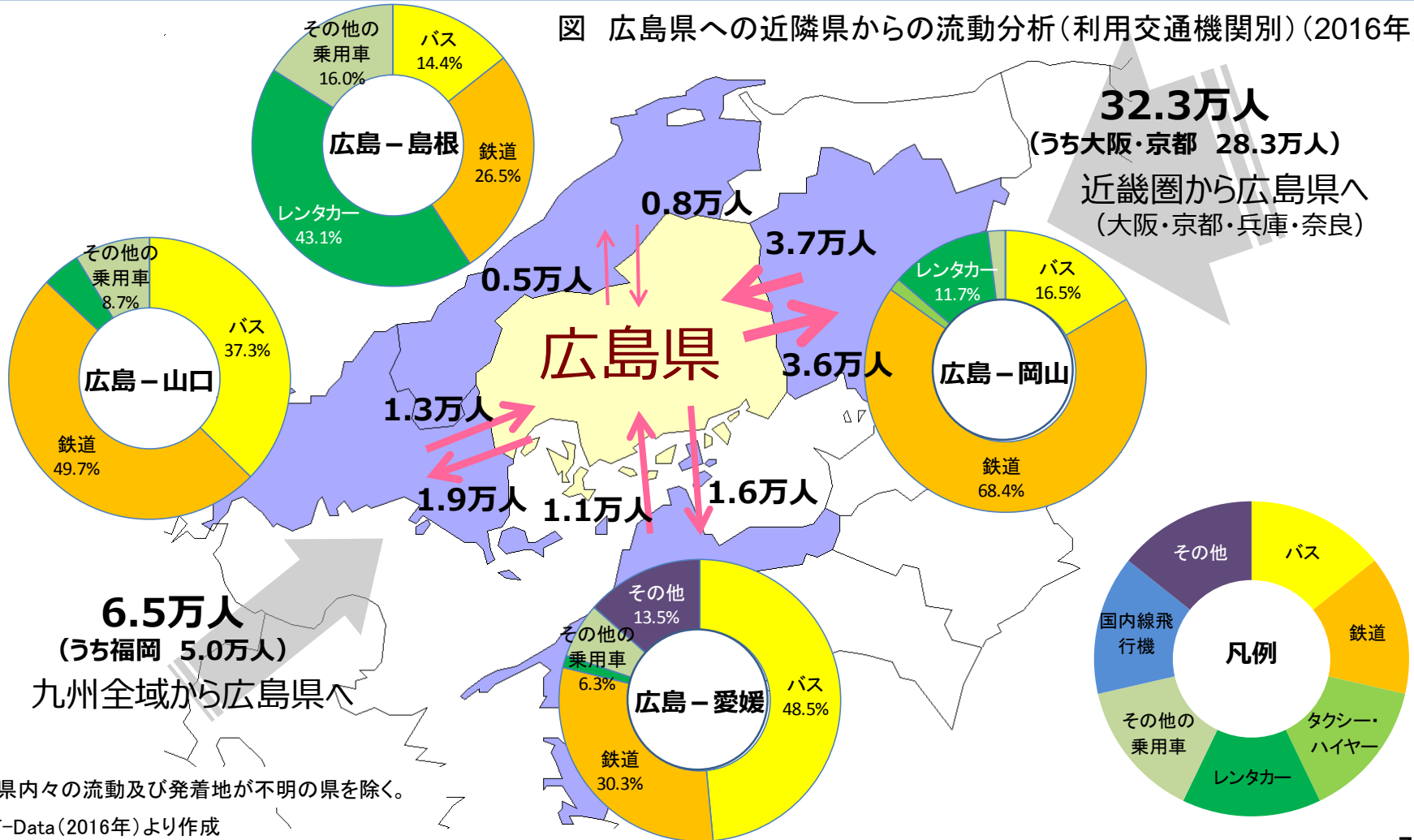
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 隣接県間の交通手段は山陽新幹線で繋がる岡山・山口は鉄道利用が多く、島根はレンタカーの利用が多い。
- 本州四国連絡橋で繋がる愛媛はバスの利用が多い。

図 広島県への近隣県からの流動分析(利用交通機関別)(2016年)



(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

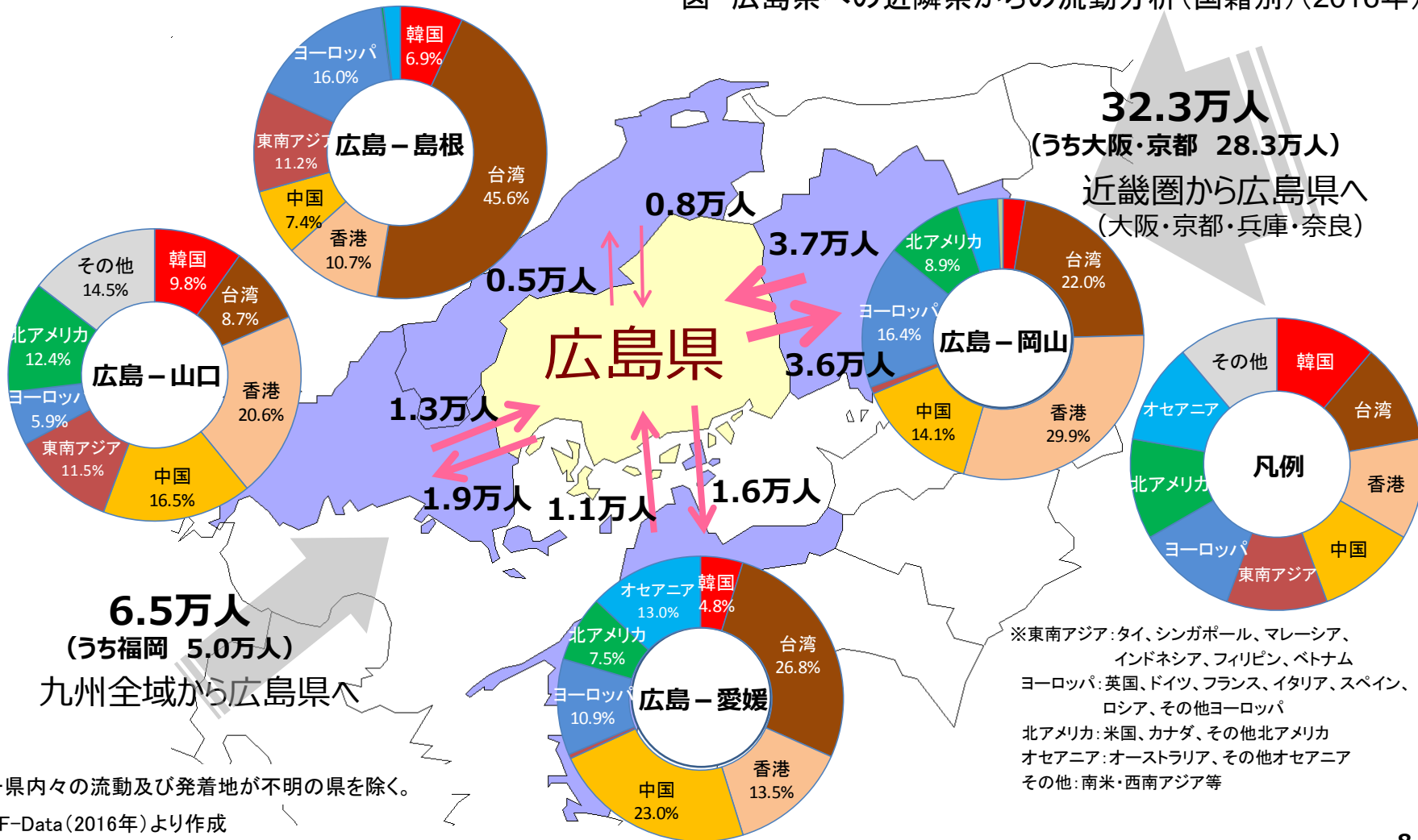
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 隣接県間の国籍構成は岡山県、山口県、愛媛県では欧米等の構成率が高く、島根県は台湾の構成率が高い。

図 広島県への近隣県からの流動分析(国籍別)(2016年)



(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

分析例⑥ 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング

都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 国籍別に各都道府県の入込客数を把握することが可能である。
- 韓国国籍の旅行者は沖縄や九州地方に多数訪問しており、欧米国籍の旅行者は他の国籍の方と比べて広島県を多く訪問している。

表 国籍別 都道府県年間入込客数ランキング(2016年)

(万人/年)

国名	訪問地									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
中国	東京都 450.4	大阪府 264.6	京都府 190.1	北海道 114.2	愛知県 95.3	神奈川県 80.8	沖縄県 75.2	千葉県 65.5	静岡県 64.2	奈良県 52.8
韓国	大阪府 253.9	東京都 183.6	福岡県 172.5	沖縄県 148.1	京都府 93.8	北海道 90.6	大分県 72.2	兵庫県 32.1	長崎県 23.0	奈良県 18.5
台湾	東京都 251.0	北海道 167.8	沖縄県 120.4	大阪府 119.2	京都府 82.7	福岡県 40.4	千葉県 38.4	兵庫県 33.7	奈良県 31.0	神奈川県 26.7
タイ	東京都 75.7	大阪府 44.4	北海道 29.3	京都府 22.7	千葉県 14.6	兵庫県 9.6	神奈川県 9.0	山梨県 7.4	静岡県 7.3	福岡県 7.2
フィリピン	東京都 32.4	大阪府 15.9	京都府 8.5	千葉県 6.2	愛知県 5.9	神奈川県 4.5	静岡県 3.8	奈良県 2.5	福岡県 2.2	兵庫県 2.1
英国	東京都 29.9	京都府 9.9	大阪府 7.8	広島県 4.6	神奈川県 3.8	北海道 2.8	千葉県 1.9	静岡県 1.8	愛知県 1.7	奈良県 1.4
米国	東京都 123.8	京都府 32.0	大阪府 23.6	神奈川県 20.2	千葉県 11.3	沖縄県 9.3	広島県 8.7	愛知県 6.6	北海道 6.5	静岡県 4.3
オーストラリア	東京都 45.2	京都府 18.1	大阪府 15.9	長野県 7.8	北海道 7.4	広島県 7.2	千葉県 4.8	神奈川県 3.7	静岡県 2.7	岐阜県 2.6

首都圏	近畿圏	中京圏	九州	北海道	沖縄
-----	-----	-----	----	-----	----

(注1) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

(注2) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)

(出典) FF-Data(2016年)より作成

分析例⑦ 運輸局ブロック別 四半期別入込客数

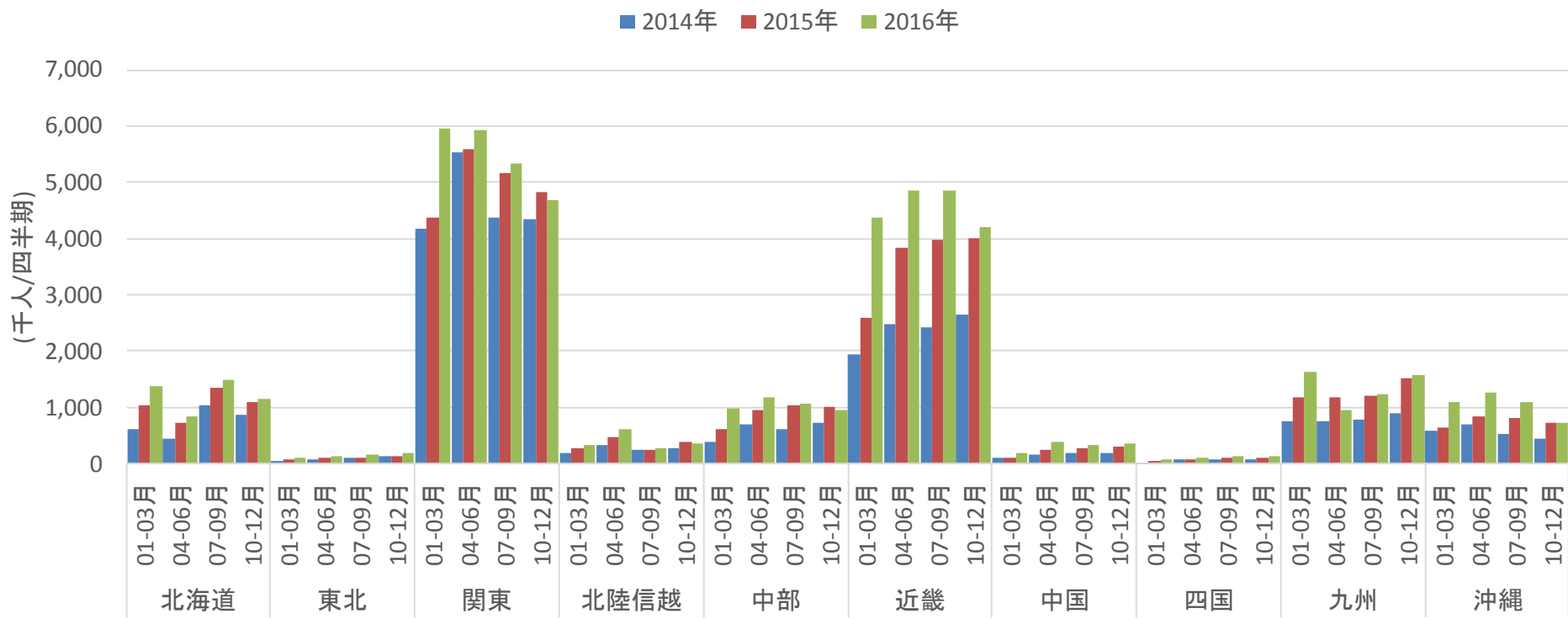
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 入込客数を四半期別に把握することが可能である。
- 関東への入込客数は2015年まで4-6月が最も多かったが、2016年は1-3月が最も多くなった。
- 近畿への入込客数は2015年までは1-3月が他四半期と比較して少なかったが、2016年は四半期通じて訪問者数が多くなった。

図 運輸局ブロック別 四半期別入込客数



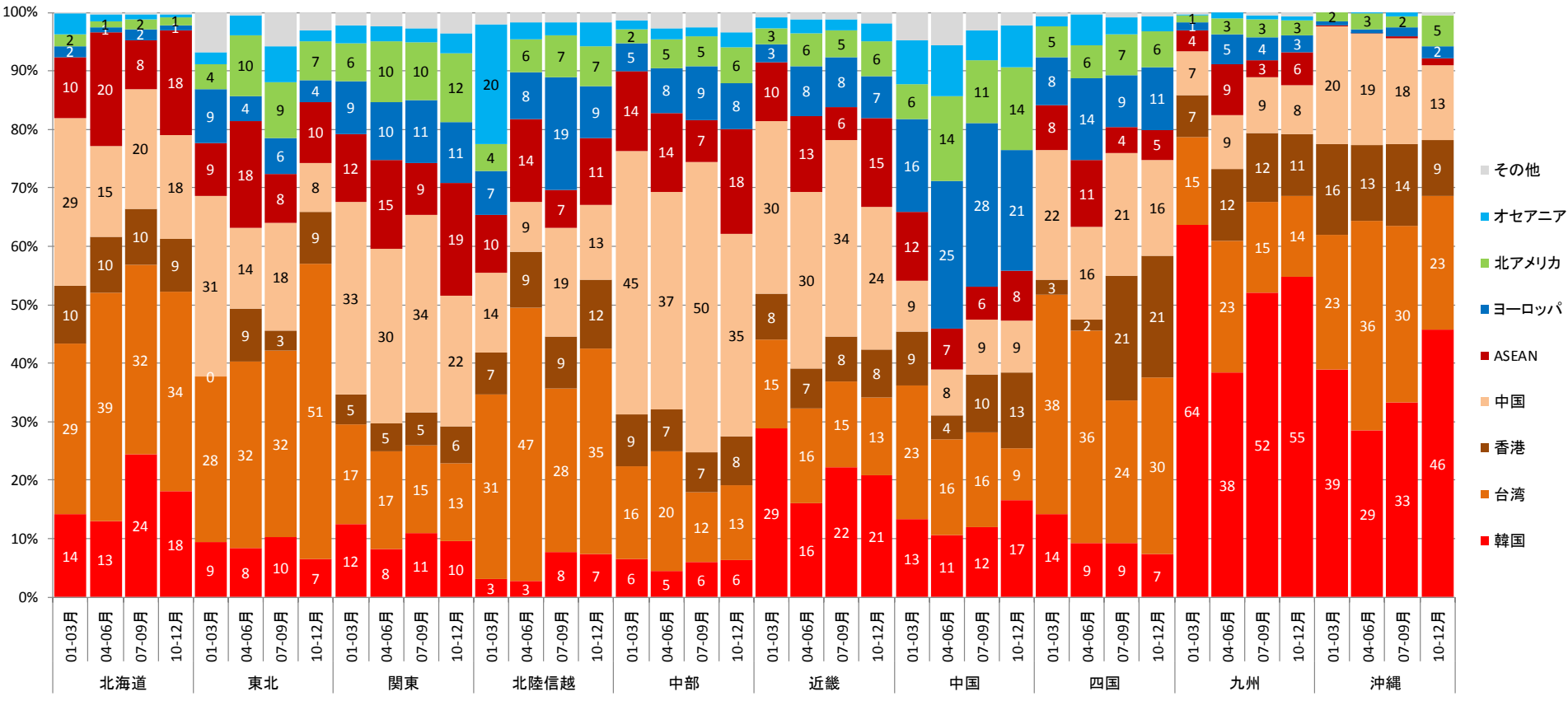
(注)最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。

出典)FF-Data(2014~2016年)より作成

都道府県間流動表 公表用データベース 貸出用データベース

- 国籍別の入込客数を四半期別に把握することが可能である。
- 九州は韓国国籍の旅行者のシェアが高く、関東、中部、近畿は中国国籍の旅行者のシェアが高い。
- 中国地方は、シェアが特定の国に偏らず、他の地域と比較して欧米諸国のシェアが高い。

図 運輸局ブロック別 四半期別 国籍別入込客シェア(2016年)



(注)最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

(出典)FF-Data(2016年)より作成

2. 利用交通機関に関する分析

分析例⑨ 運輸局ブロック別 交通機関分担率

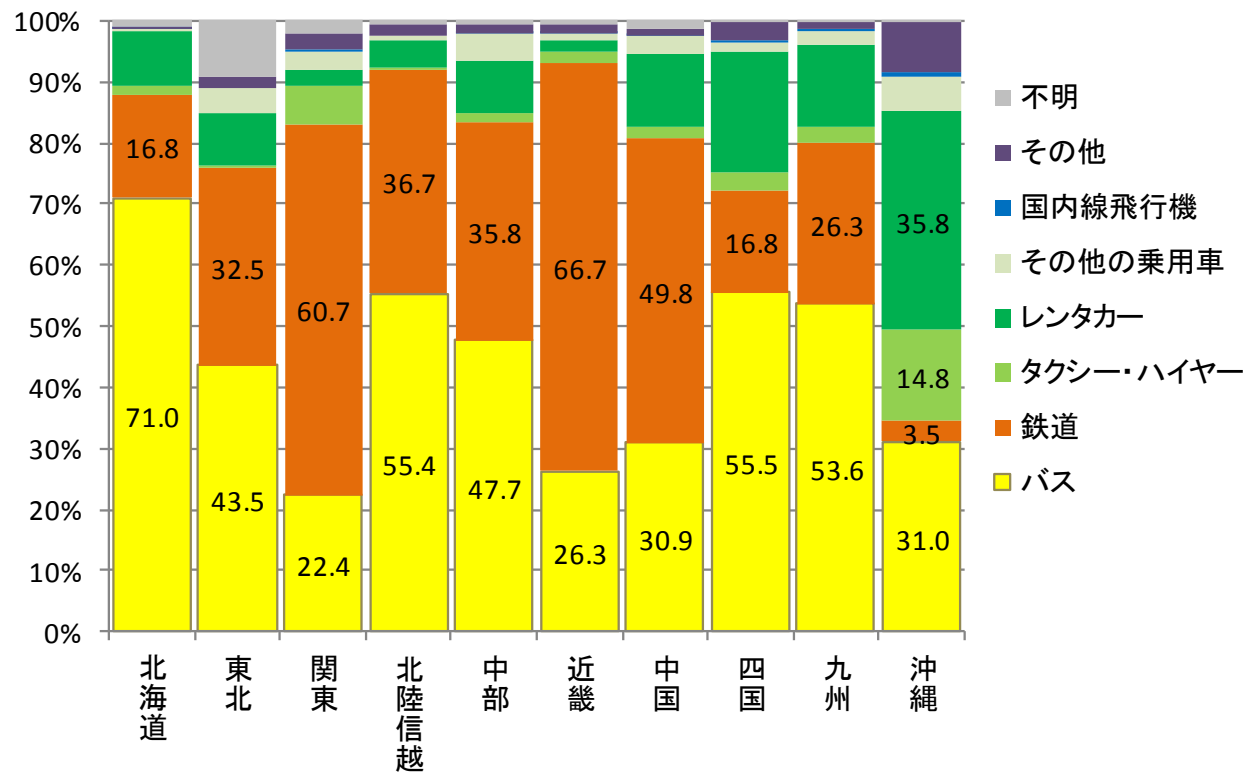
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 地域別の交通機関分担率を分析することが可能である。
- 本州・北海道・九州内の移動は、鉄道・バスの利用が多く、沖縄県内の移動は自動車が多い。

図 運輸局ブロック別 ブロック内移動の交通機関分担率(2016年)



(注1) 地域ブロック: 運輸局単位で集計

(注2) 出入国港からのアクセス・イグレス及び発着地不明を除き、国内訪問地間の運輸局内々流動を対象。

(出典) FF-Data (2016年) より作成

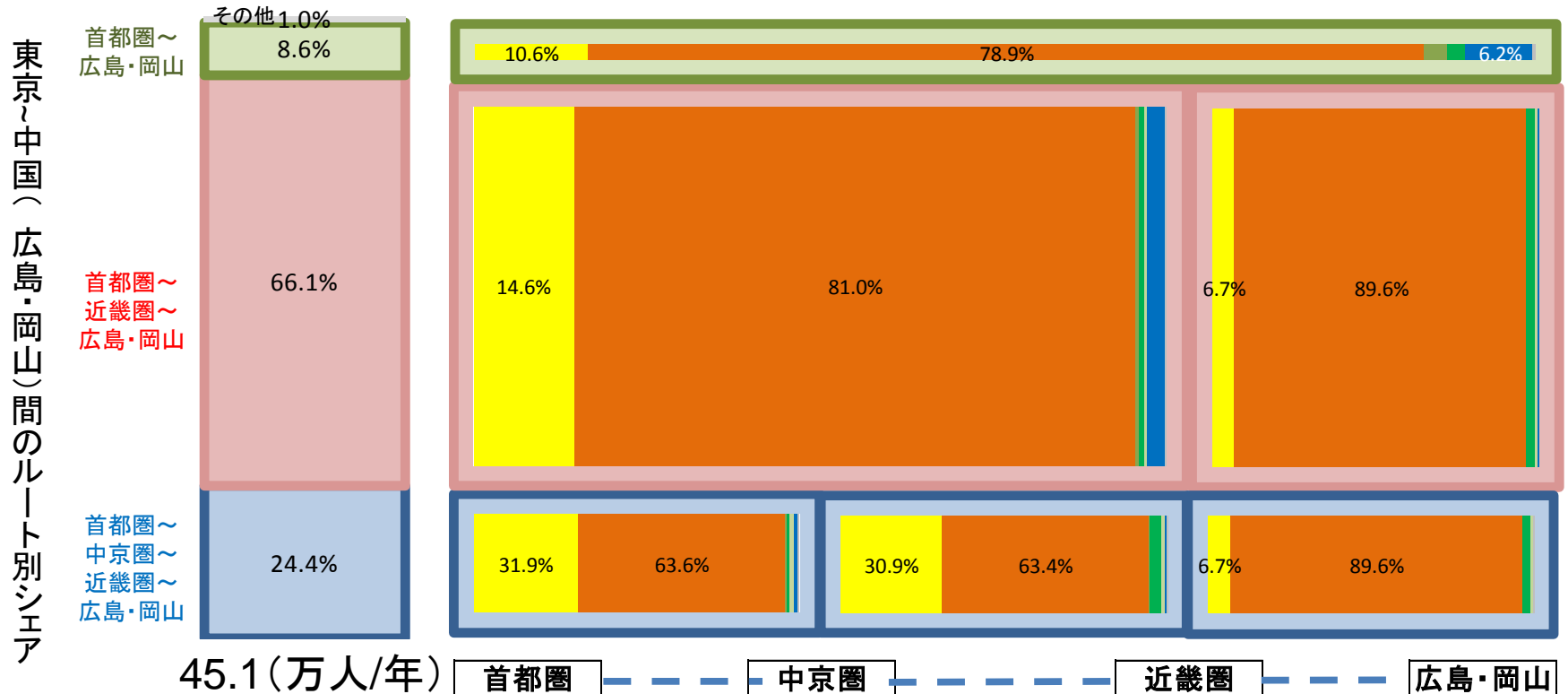
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 東京～広島・岡山を移動した訪日外国人旅行者数は年間45.1万人となり、そのうち約9割の旅行者は途中で近畿圏(京都・大阪)を訪問している。
- 首都圏からの旅行者の約6～8割、近畿圏からの旅行者の約9割が鉄道で中国(広島・岡山)を訪れている。

図 東京～中国(広島・岡山)間のルート別交通機関別訪日外国人旅行者数(2016年)



45.1(万人/年)

新幹線の営業キロ(JTB時刻表) 東京-名古屋(360km) 名古屋-新大阪(180km) 新大阪-広島(340km)

(注) 首都圏(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県)、中京圏(愛知県、岐阜県、三重県)
近畿圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県)
(出典) FF-Data(2016年)より作成



3. 旅行者属性に関する分析

分析例⑪ 都道府県別 旅行目的別シェア

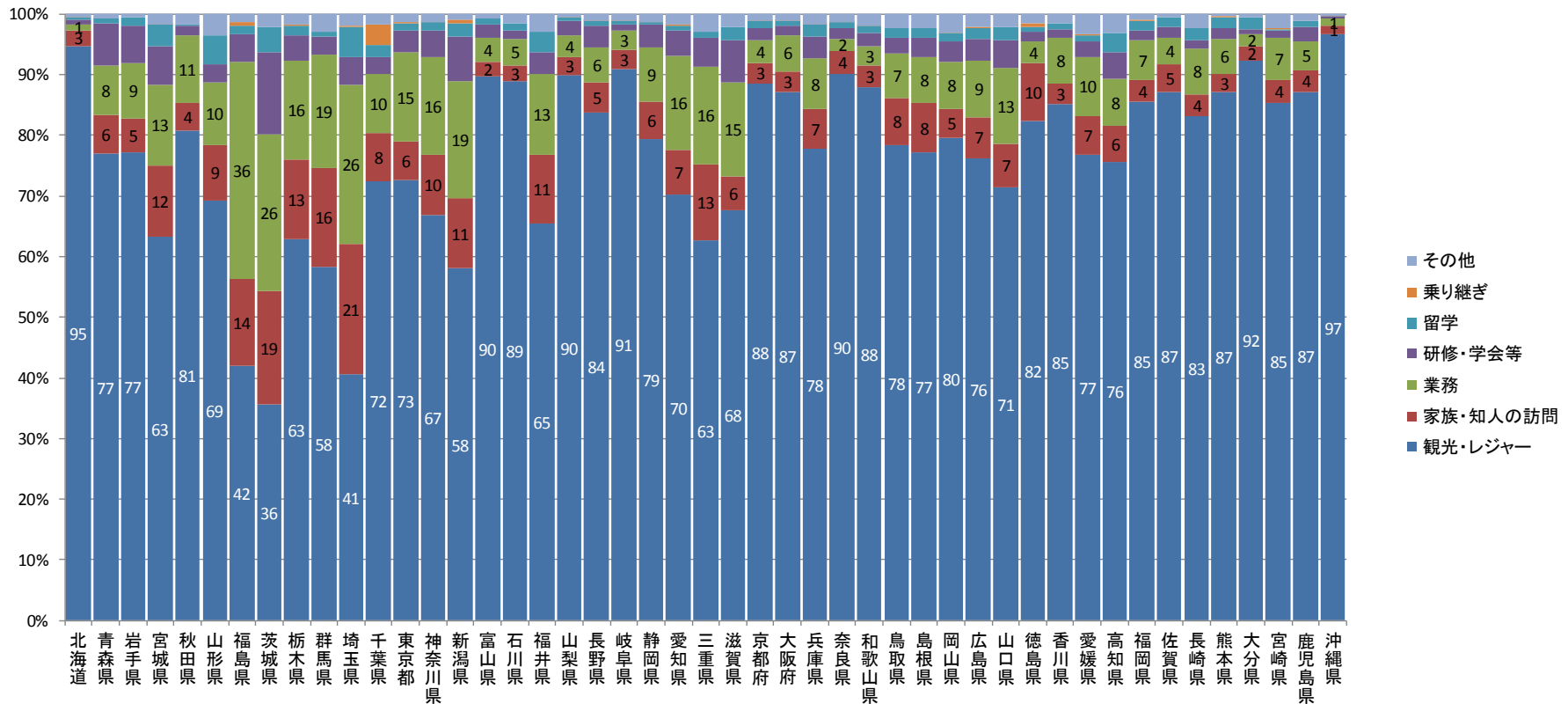
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 旅行者の旅行目的を把握することが可能である。
- 北海道・岐阜県・奈良県・大分県・沖縄県は「観光・レジャー」の割合が約9割以上と高い。
- 一方、首都圏・中京圏は他の地域と比較して業務目的が2～3割と高い。

図 都道府県別 旅行目的別シェア(2016年)



(注1) 旅行目的不明のサンプルを除く。

(注2) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。複数回同一都道府県を訪問している人は重複カウントしている。

(出典) FF-Data (2016年) より作成

分析例⑫ 国籍別 旅行手配方法(団体/個人)

都道府県間流動表

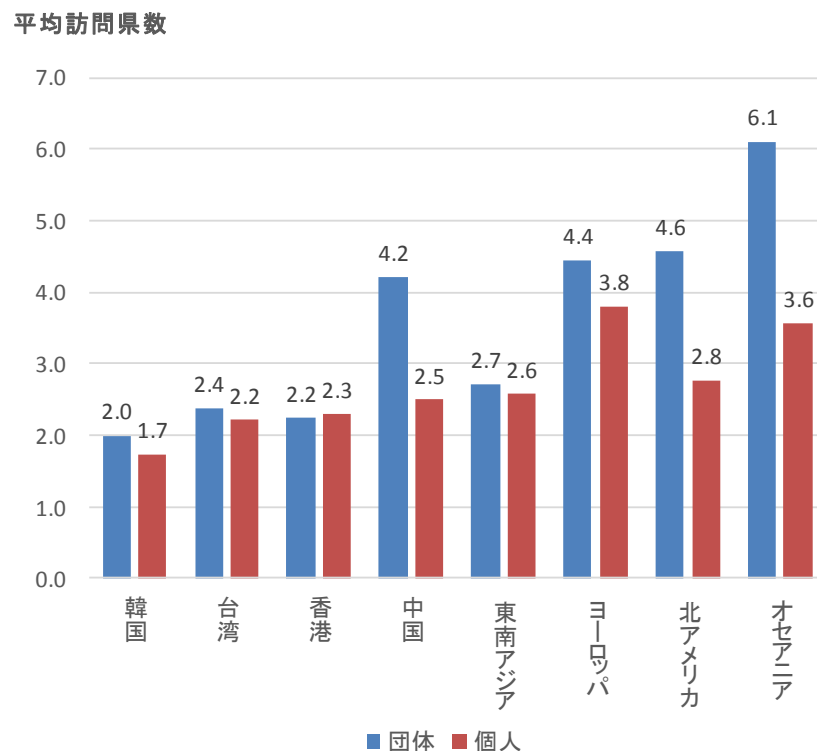
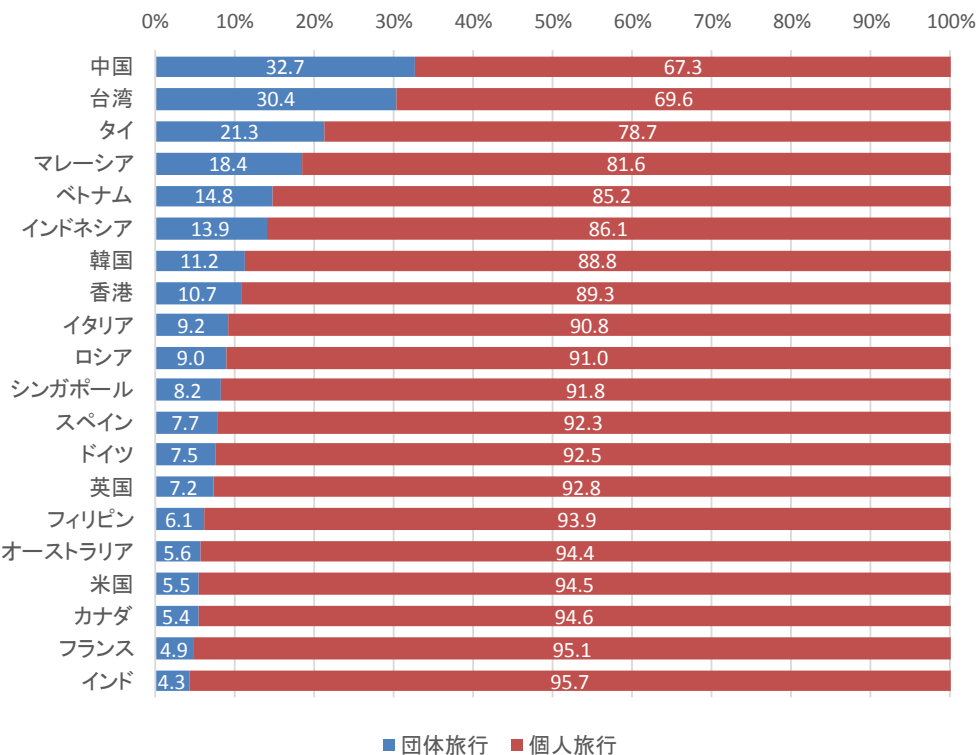
公表用データベース

貸出用データベース

- 旅行者の旅行手配方法(団体/個人)を把握することが可能である。
- 中国・台湾国籍の旅行者は団体旅行が約3~4割と多い。
- 中国・欧州・北米・オセアニア国籍の旅行者は団体旅行における平均訪問県数が多い。

図 訪日外国人旅行者の国籍別旅行手配方法(2016年)

図 国籍別 旅行手配方法別平均訪問県数(2016年)



(注) 旅行手配方法不明のデータを除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

(注1) 旅行手配方法不明のデータを除く。

(注2) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。

分析例⑬ 国籍別来訪回数

都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 旅行者の来訪回数を把握することが可能である。
- 中国・欧米国籍の旅行者は来訪回数が1回目の割合が約5～7割と高い。
- 来訪回数が増加するにつれて、平均訪問県数は減少する傾向にある。

図 国籍別来訪回数シェア(2016年)

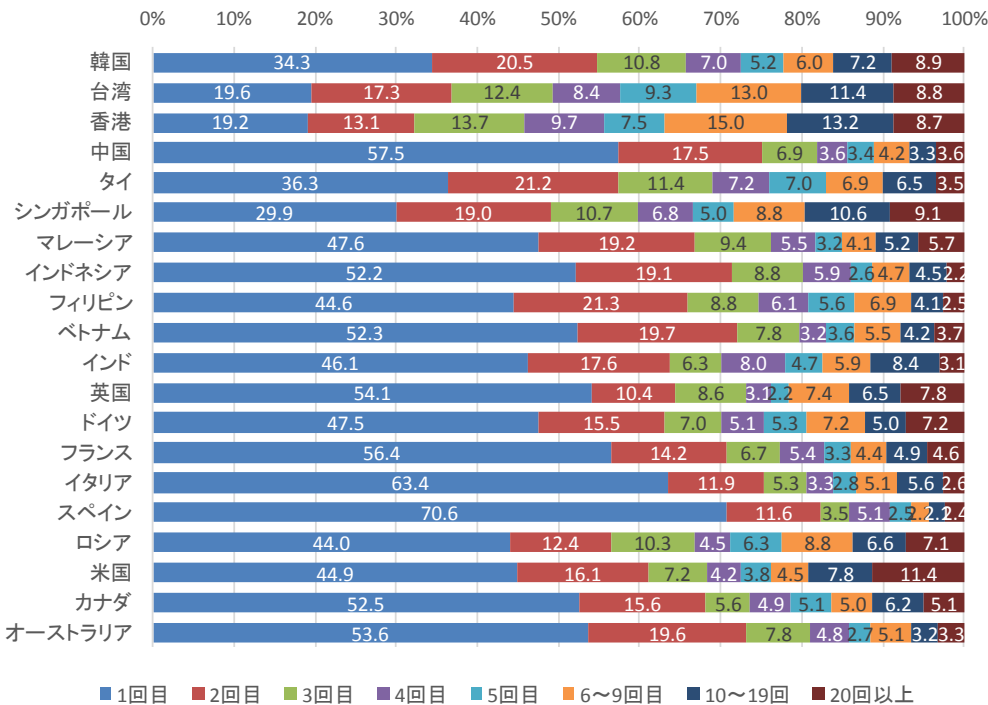
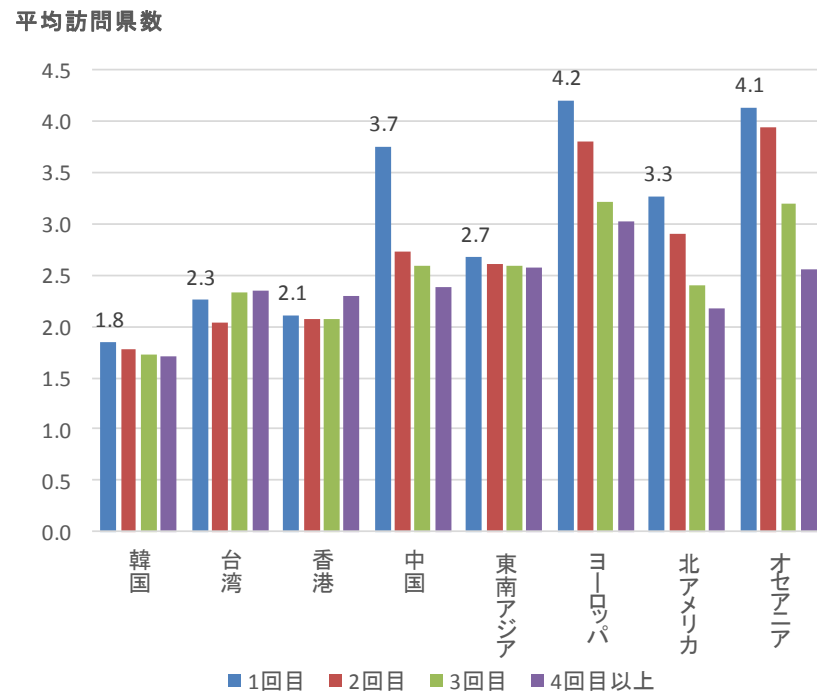


図 来訪回数別平均訪問県数(2016年)



(注) 来訪回数不明のデータを除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

(注1) 来訪回数不明のデータを除く。

(注2) 最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。

4. 周遊に関する分析

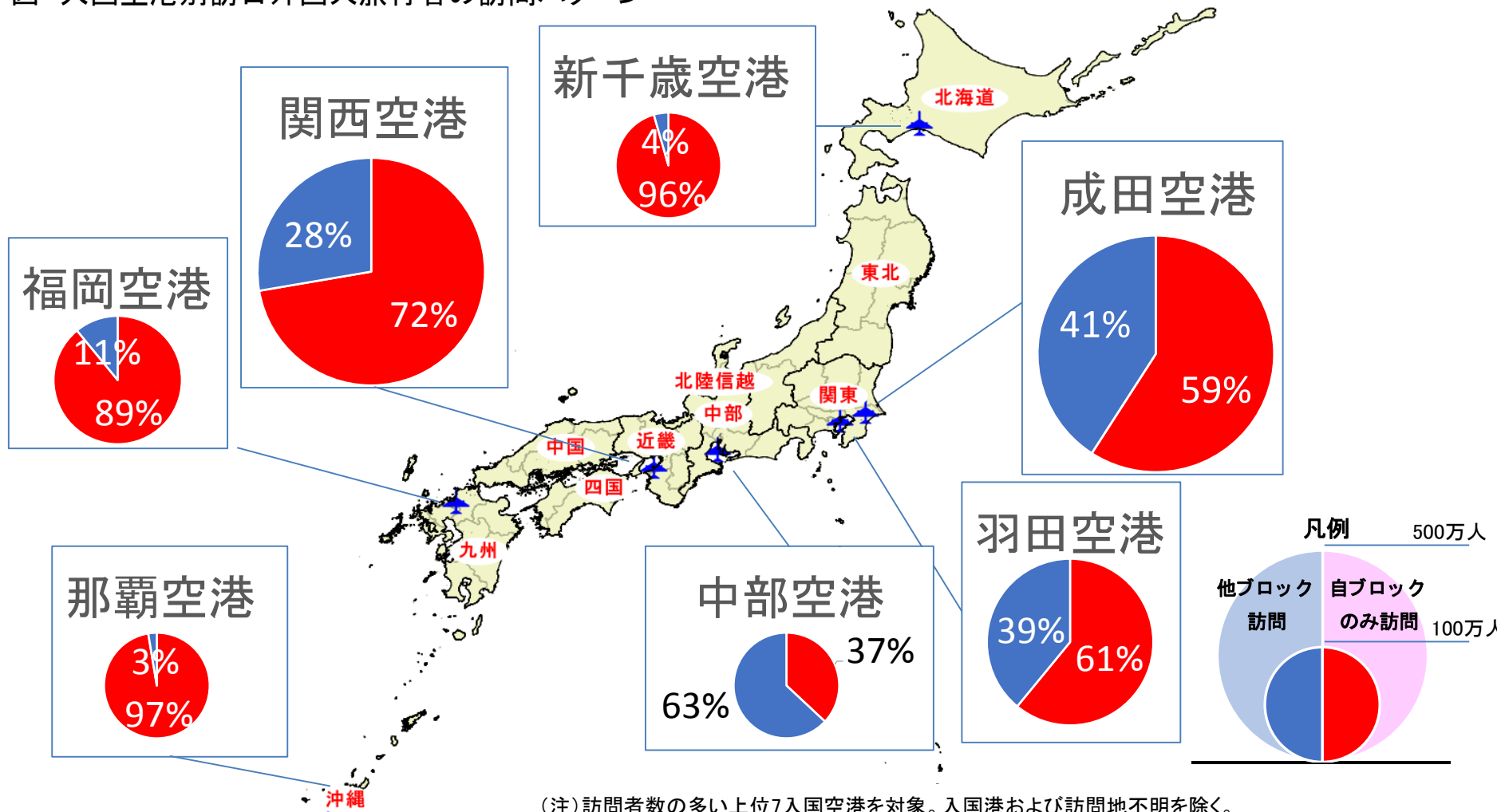
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 入国空港別訪日外国人旅行者の訪問パターンをみると、成田・羽田・関西・中部は約3～6割が他ブロックへ訪問している。一方、地方空港からの入国者は9割以上が、自ブロックのみ訪問にとどまる。

図 入国空港別訪日外国人旅行者の訪問パターン



(出典)FF-Data(2016年)より作成

(注)訪問者数の多い上位7入国空港を対象。入国港および訪問地不明を除く。

分析例⑮ 入国空港からの訪問地に関する分析例(成田空港の例)

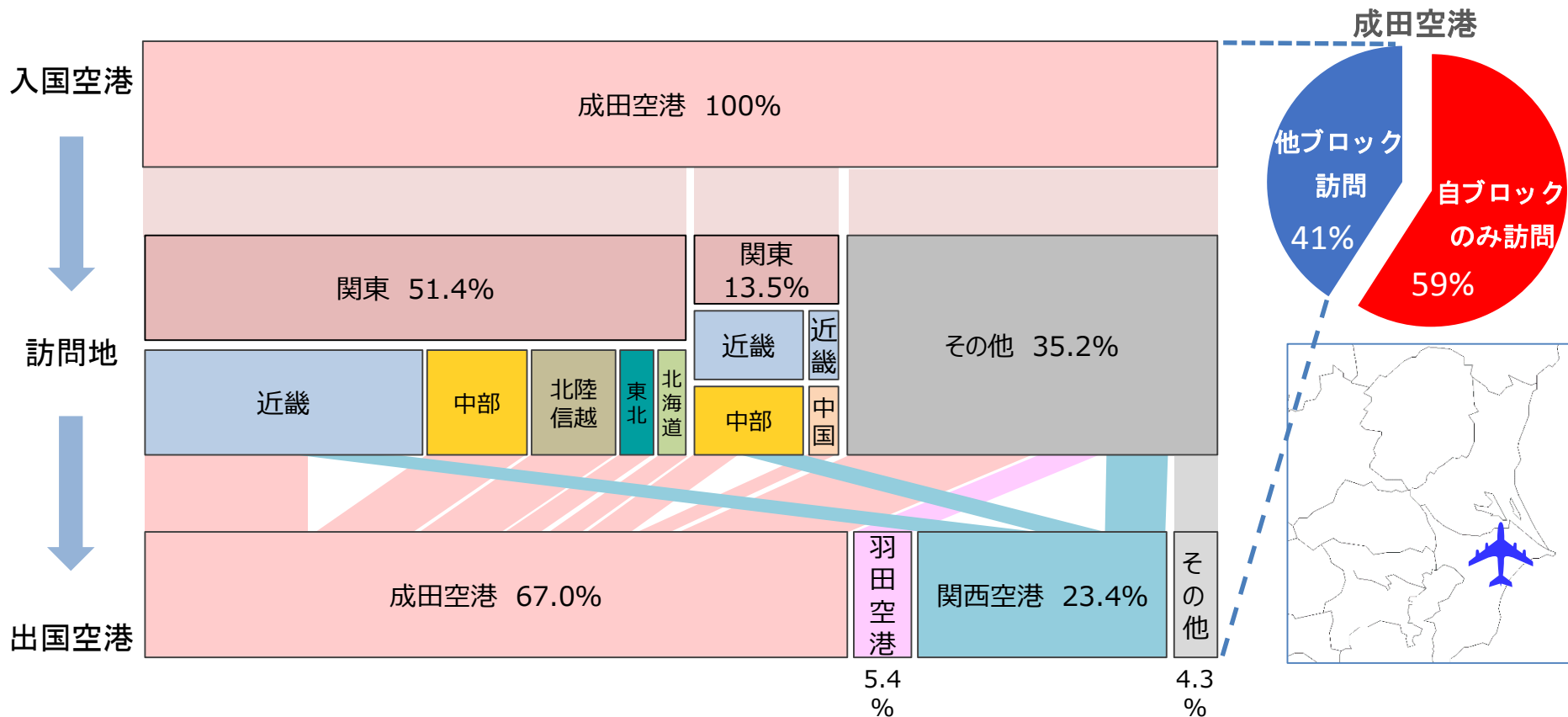
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 成田空港から入国した訪日外国人旅行者の約7割は関東ブロックのみを訪問している。
- 成田空港から入国した訪日外国人の約3割が関東ブロック以外も訪問し、大半は近畿ブロックや中部ブロックを訪問している。

図 成田空港から入国した訪日外国人旅行者の訪問パターン



(注) 国内訪問地(運輸局単位)は順不同。入国港および訪問地不明を除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

5. 経年的な分析

分析例⑬ 国籍別 都道府県年間入込客数の推移

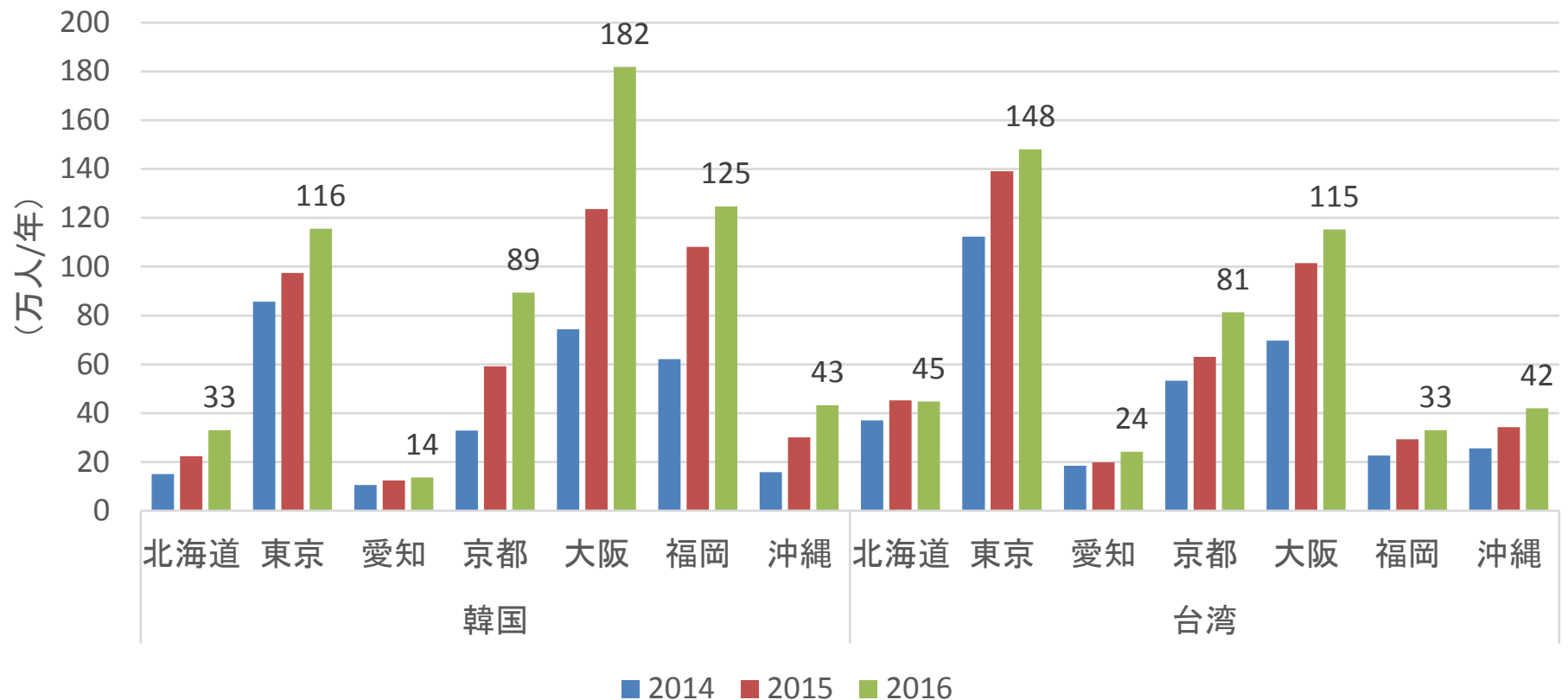
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 2014～16年にかけて、韓国国籍の旅行者は京都、大阪、福岡、沖縄への訪問が増加している。
- 台湾国籍の旅行者についても、大阪、沖縄への訪問が増加している。

図 国籍別 都道府県年間入込客数の推移



(注) 最終訪問地から出国港までの流動、同一訪問地内々の流動及び訪問地不明を除く。

(出典) FF-Data(2016年)より作成

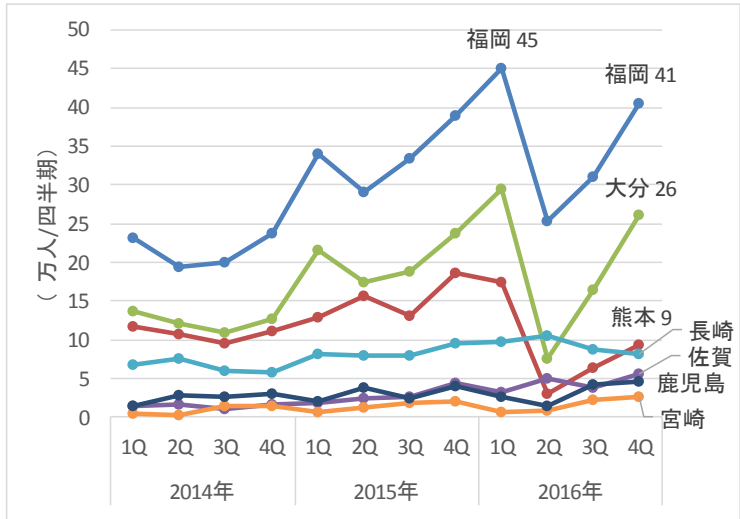
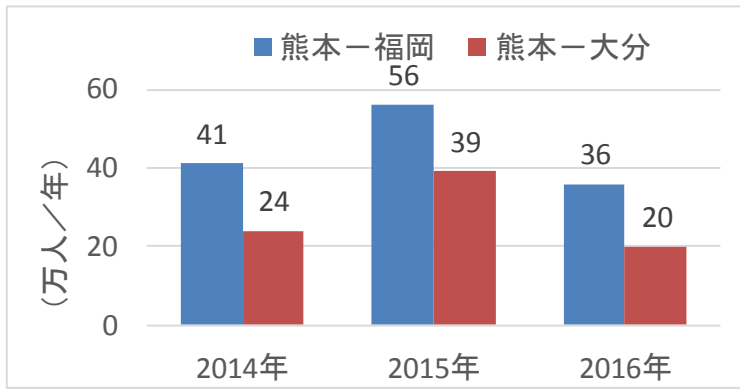
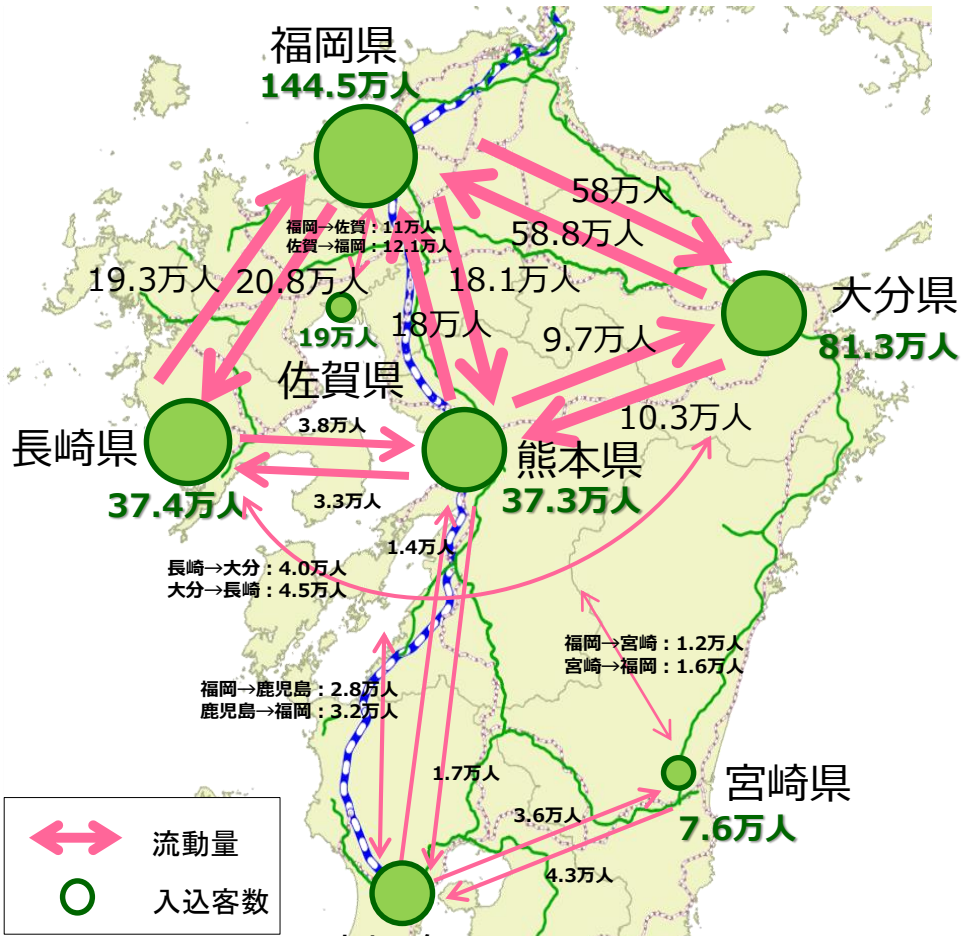
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 九州では福岡県を中心に北部の県間での流動が多いことがわかる。
- 熊本ー福岡、大分間では、熊本地震の影響もあり、2016年の流動量が2015年よりも減少している。

図 九州地方の入込客数と地域間流動量(2016年)



※四半期と年間の拡大係数は異なるため、四半期の合計は年間値と一致しない。
 ※熊本地震発生: 2016年4月(2Q)

(注) 同一県内々の流動及び発着地が不明の県を除く。
 (出典) FF-Dataより作成

分析例⑱ 東京からの流動分析の推移(北陸の例)

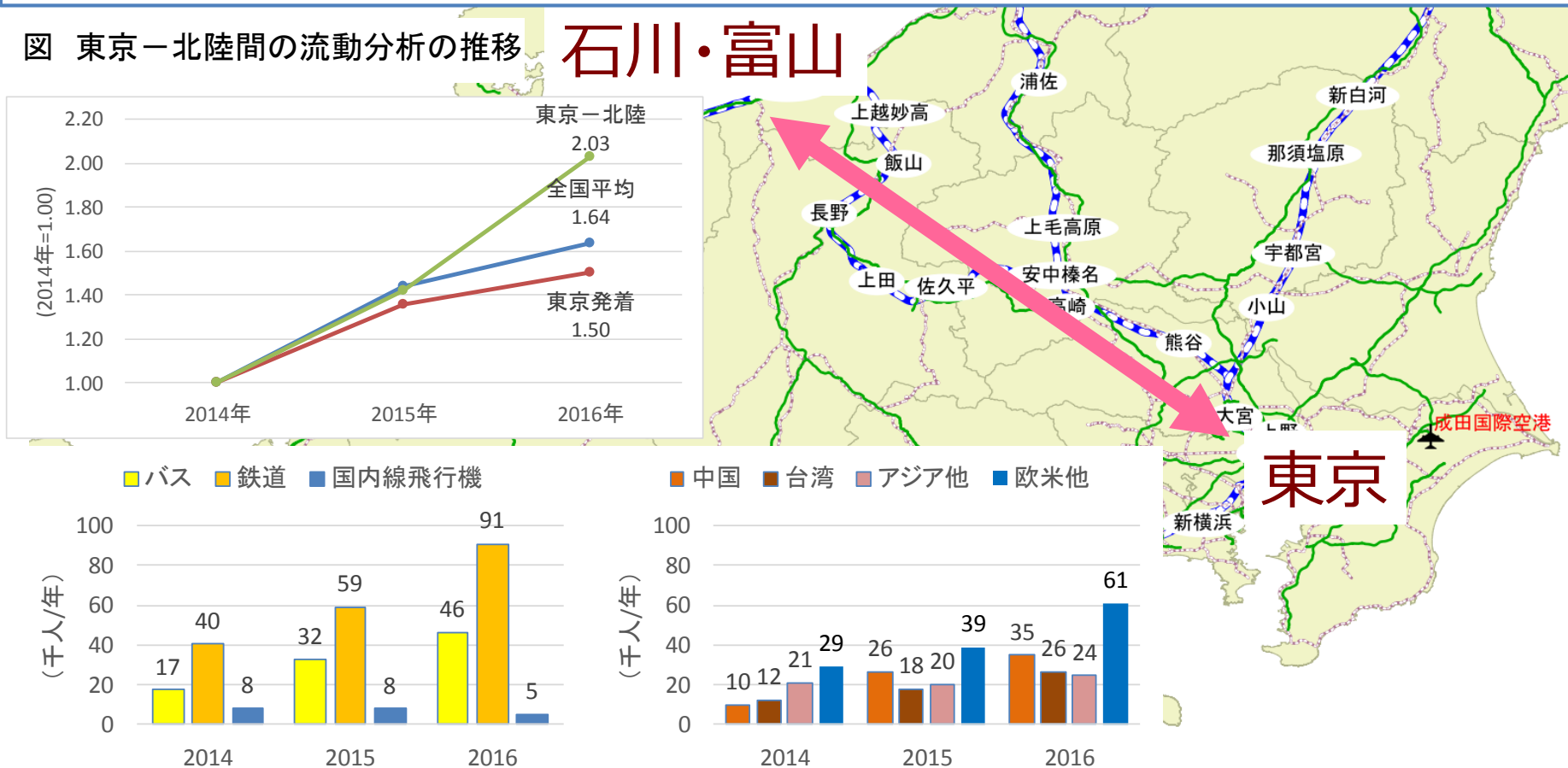
都道府県間流動表

公表用データベース

貸出用データベース

- 東京－石川・富山間の流動量は2014年から2016年にかけて約2倍に伸びている。
- 利用交通機関別の流動量は、バス・鉄道が増加し、航空が減少している。(北陸新幹線(長野－金沢間開業は2015年3月))
- 国籍別の流動量は、欧米国籍の旅行者の流動量が大きく増加している。

図 東京－北陸間の流動分析の推移 **石川・富山**



(注)同一県内々の流動、最終訪問地から出国港までの流動及び訪問地不明を除く。

(出典)FF-Dataより作成